

競技注意事項

1 競技規則について

2025 年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則、並びに本大会申し合わせ事項による。

2 招集について

- ① 3 ゲート（1500m スタート地点後方）に招集所を設置する。競技者は招集開始時刻までに集合し、競技役員の誘導に従うこと。
- ② 砲丸投・円盤投・ハンマー投は、投てき場にて現地招集とする。
- ③ 招集開始及び完了時刻は競技日程に記載する。
- ④ 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとして処理する。
- ⑤ 招集完了時刻までに最終点呼を受けること。その際アスリートビブス（ナンバーカード）、競技用靴等の点検を受けること。
- ⑥ 招集は、本人が招集所において受けること。ただし、同一時間に他の種目と兼ねて出場する者は、招集所係及び当該審判主任に申し出て了解を得ること。この場合代理人を認める。
- ⑦ リレーに出場する競技者で、同一時間に他の種目と兼ねて出場する者は、招集所係及び当該審判主任に申し出て了解を得ること。
- ⑧ 混成競技の各日 2 種目め以降については混成競技者控室に待機し、トラック競技は競技開始 10 分前までに、フィールド競技は競技開始 20 分前までに、混成競技係の誘導で競技場所に集合する。また混成競技者控室は正面スタンド 1 階、室内ウォームアップエリアとする。
- ⑨ 各競技の開始時刻や招集時刻については、プログラム等に掲載する競技日程が正式なものである。招集時刻については、必ず競技日程に記載された時刻を確認すること。

3 アスリートビブス（ナンバーカード）について

- ① アスリートビブスは胸と背に 1 枚ずつ確実につけること。
女子選手のセパレートタイプのユニフォームについては、ナンバーが審判から見えるように 4 ケ所で確実に留めること。
ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸または背に 1 枚つけるだけでよい。
- ② トラック種目では、腰ナンバーを右腰後方につけること。
腰ナンバーは招集所にて配布するので、競技者各自が持ち出し、競技終了後はフィニッシュライン前方の 2 ゲートで回収する。
- ③ **4×400mR に出場する競技者は、胸背部特別ビブスを使用する。オーダー用紙提出時に特別ビブスを受け取ること。また 4 走の競技者は写真判定のため右腰後方に腰ナンバーをつける。競技終了後に、特別ビブスと腰ナンバーをフィニッシュライン前方の 2 ゲートで回収する。**
- ④ ランニングシャツの裾を外に出す場合は、必ず腰ナンバーが見えるようにすること。
- ⑤ 男子十種競技・八種競技、女子七種競技の最終種目は特別ビブスをつける。（係が配布）

4 競技場で使用する競技用靴について

- ① スパイクピンの長さは、9 mm 以内とする。ただし、走高跳・やり投は 12mm 以内とする。
いずれの場合もスパイクピンの数は、11 本以内とする。ピンの形状は全天候舗装の競技場で使用できる物とし、土のグラウンド用のピンを使用することは禁止する。
- ② 靴底の厚さは、トラック競技・フィールド競技ともに 20mm 以内とする。ただし、競技場内で行う競歩競技は、道路競技と同じ 40mm 以内とする。
- ③ 靴底の厚さの検定は必ず実施するものではないが、招集所審判長およびトラック・フィールド各審判長の判断により、検定を実施する場合がある。

- ④シューズについては、WA（世界陸連）の認証品リストを確認の上、使用すること。

【WA（世界陸連）Web サイト；[LIST OF APPROVED ATHLETIC SHOES](#)】



- ⑤投てき競技で、短距離用スパイクシューズ等のピンを取り外して使用することは禁止する。

5 棄権について

出場種目を棄権する場合、本大会においては特に申し出なくとも良い。

招集完了時刻に競技者が競技会場に来ておらず、同一時刻に他種目に出場する旨の連絡もない場合は、棄権したものと見なす。

6 練習について

- ①練習に際しては競技役員の指示に従って安全に練習すること。
- ②練習会場の開放時間・使用場所については、栃木陸協 Web サイト等でも別途提示する。
- ③練習会場は主に第2陸上競技場を使用し、別に定める注意事項に従って、練習を行うこと。
- ④第2競技場のメインスタンド下雨天走路は、ジョギングと体操のみ使用を許可する。
第2競技場のバックスタンド外側の雨天走路は、ドリルや流し等の使用を許可する。
雨天走路は一方通行で使用する。
- ⑤第2競技場の利用は17時頃までとし、その後の整理運動等はカンセキスタジアムで行う。
- ⑥8時から競技開始10分前までは、カンセキスタジアムでの練習を許可する。トラックの使用区分は別に定める。跳躍・投てきピット、芝生フィールド内での練習は禁止する。
- ⑦カンセキスタジアムのバックスタンド下雨天走路は、8時から使用可とする。
- ⑧カンセキスタジアム1階管理通路および2階の外周での練習は不可とする。
- ⑨投てき場隣のクレイグラウンドを投てき競技出場者用の練習場所として開放する。ジョギングや流し、MB投げなどの練習は、周囲に注意して実施すること。投てき用具（砲丸・円盤・ハンマー・やり等）を用いた練習については禁止する。投てき用具を投げる練習は、競技開始直前の公式練習のみとする。
- ⑩総合運動公園内園路はジョギング程度なら可とする。ただし集団での走行、リレーのバトンパスをしながらのジョギング等は禁止とする。選手・関係者及び公園の一般利用者の安全確保のため、ジョギング以外の練習（ハードルやボール等の使用）は禁止。

7 競技者の入退場について

- ①招集完了後の競技者がスタジアム内に入場する際は、3ゲートからの入場とする。
- ②スタジアム内の雨天走路への入場は、3・4ゲートからとし、メインスタンド1階中央からの入退場は禁止とする。入退場の際は競技の妨げとならないように注意する。
- ③スタジアム内競技場所・雨天走路への出入りは競技者のみ許可する。付添人や指導者、保護者等の入場は不可とする。
- ④トラック競技に出場する競技者は、フィニッシュ後はバックストレート側を歩いてスタート地点に戻る。フィニッシュ後にメインスタンド前を通らないこと。
- ⑤フィールド競技者も他の競技の妨げとならないよう、係員の指示に従うこと。

8 競技について

- ①1部は選手権種目とし、トラック競技は予選及び決勝ラウンドを実施する。（参加者が少ない場合は予選を実施せず、決勝のみ実施する場合もある。）フィールド競技（走高跳・棒高跳以外）はトップ8による6回試技を実施する。
- ②2部はオープン種目とし、トラック競技はタイムレース決勝のみ実施する。
フィールド競技（走高跳・棒高跳以外）は3回の試技までの実施とする。
- ③トラック競技は、不正スタート1回で失格とする。

- ④長距離種目においては競技運営上、下記の所要時間を超えた場合、新しい周回に入れない。
5000m 男子は 20 分、女子は 25 分。10,000m 男子は 40 分、女子は 50 分。
男子 5000m 競歩は 30 分、女子 5000m 競歩は 33 分。
 但し競技運営上、混合レースになった場合は、女子の制限時間とする。
 競技運営上、著しく遅れた選手に審判長が競技を中止させる場合がある。
- ⑤リレーについて
 ア) 1 部リレー種目への出場は各団体および各学校 1 チームとする。
 イ) 2 部リレーには各団体および各学校から複数チーム出場することができる。
 ウ) 1 部リレーに登録した競技者を、2 部リレーに起用することは認めない。
 同様に 2 部チームに登録した競技者を 1 部チームに起用することは認めない。
 エ) 1 部リレーチームの競技者が何らかの理由で欠場し、リレーチームの編成ができない
 場合、当該団体・学校の競技者で他の 1 部種目に出場している選手をリレーメンバーと
 して起用することは認める。ただし 2 部競技者の起用は認めない。
- ⑥3000m以上の種目で 1 回のレースに多数の競技者がいる場合、グループスタートを実施する
 場合がある。
- ⑦5000m以上の種目の給水については、主催者側が給水所と飲料水を用意する。
- ⑧距離を競うフィールド競技における判定に対する抗議の際、速やかに裁定を下すことが困難
 な場合は、〔国際〕ルールを適用し、8 人を越える競技者でトップ 8 以降の試技を実施する
 場合もある。
- ⑨各競技の結果は Web 上の速報サイトに掲載する。
- ⑩各競技の開始時刻や招集時刻については、プログラムに記載されている競技日程が正式なも
のである。栃木陸協の Web 速報サイトに記載する競技開始時刻や招集開始時刻は、コンピュ
 ータシステムの不具合により、誤った表記をする場合がある。競技日程等については、必ず
プログラムに記載されている事項を確認すること。

9 トラック競技の組・走路順、フィールド競技の試技順等について

- ①トラック競技の予選の組・走路順、フィールド競技の試技順は主催者が抽選し、プログラム
 に示すので、審判員の指示に従うこと。
- ②リレー競走に出場するチームはリレーオーダー用紙を作成し、各ラウンドの第 1 組目の招集
 完了時刻の 1 時間前までに T I C に提出する。リレーオーダー用紙は T I C で配布する。
 また、事前に栃木陸協 Web サイトにもリレーオーダー用紙を掲載する。
- ③リレー競技に出場するチームは、原則として同一ユニフォームで参加しなければならない。
 ただし、同一のチームと判別可能であれば、形状が異なるユニフォームを着用しても良い。
- ④タイムによる次のラウンドに進む出場者の決定については、次のとおりとする。
 同記録があり、レーン数が不足する時の処置は、写真判定主任が 0.001 秒単位の実時間を判
 定して出場者を決定する。それでも決定できない時は抽選とする。(TR 21)

10 跳躍競技（高さ・踏切板の距離）について

(※審判長の判断で、変更することもある。2 部競技の最初の高さは審判長が判断する。)

種目		練習	試 技
走高跳	男子	1. 65 1. 90	1. 70～1. 75～1. 80～1. 85～1. 95～2. 00～2. 05～2. 08・以後 3cm
	女子	1. 35	1. 40～1. 45～1. 50～1. 55～1. 60～1. 65～1. 68～1. 71・以後 3cm
棒高跳	男子	2. 70 4. 00	2. 80～3. 00～3. 20～3. 40～3. 60～3. 70～3. 80・・
	女子	1. 70 2. 50	1. 80～2. 00～2. 10～2. 20～2. 30～2. 40・・

種目	練習	試 技
十種走高跳	1. 55	1. 60～1. 65～1. 70～1. 75・以後 3cm
	1. 80	
七種走高跳	1. 20	1. 25～1. 30～1. 35～1. 40～1. 43・以後 3cm
	1. 40	

- ①上記以後の高さについては、跳躍審判長の指示による。
- ②第1位決定のバーの上げ下げは走高跳 2 cm、棒高跳 5 cmとする。
関東選手権出場権獲得のための6位決定戦を行う場合も、これに準じて実施する。
- ③十種競技の棒高跳の高さについては、現地にて相談の上実施する。
- ④雨天の際は協議の上、高さを変更することもある。
- ⑤三段跳における踏切板の距離については、1部男子は12m・1部女子は10mとする。
2部男子は11m・2部女子は9mとする。

11 競技用器具について

- ①競技に使用する用器具は、検査を受け合格したものについてのみ使用できる。ポールの検査は、招集後現地にて行う。
- ②やりの検査については、競技開始時刻の2時間前～1時間30分前の間に、カンセキスタジアムの4ゲート外側の検査場に持参すること。時間外の検査は受け付けない。
検査で合格したやりについては、主催者にて預かり、主催者のものとして使用する。
- ③リレーや走高跳で使用するマーカー（テープ）は、競技者が各自で準備すること。

12 入賞者と関東選手権大会出場権について

- ①県選手権大会1部の各種目決勝上位6名（リレーは6チーム）まで関東大会へ出場できる。
ア）各種目1部決勝レース、試技が終了した競技者・団体は、スタジアム1階ロビーにて出場意向調査に回答すること。
イ）意向調査に回答しなかった場合は「出場権辞退」と判断する。
ウ）出場意向の確認ができた競技者・団体へは、関東選手権大会参加申込関係文書を配布するので、参加申込手続きを期日までに行うこと。
エ）6位以内の選手が出場辞退した場合は、繰上げ出場が可能。繰上げ出場の選手は、辞退する選手と連絡してから意向調査に来ること。
- ②男女5000m、10000m（春季大会で実施済み）、5000mWは関東選手権大会で実施しない。
- ③混成競技と女子3000mSCは、上位3名までとする。

13 表彰について

選手権者（優勝者）に賞状とメダル、また2位～3位入賞者には賞状を授与する。
各種目3位まで入賞した選手は決勝ラウンド終了後、メインスタンド1階ロビーに集合すること。ただし、他の種目に出場するために表彰式に出られない競技者がいる場合、表彰式の実施を先送りすることもある。その際は表彰係と競技者間で相談し、表彰式実施時刻を決定する。
なお、2部はオープン種目であるため、競技結果で上位となっても入賞扱いとはならない。

14 抗議について

WA 競技規則 TR8 による。

15 助力について

- ①競技者が競技場所を離れる場合は、競技役員に申し出ること。
- ②ビデオ装置、音楽プレーヤー、トランシーバー、携帯電話、スマートフォン、その他の電子

機器を競技場内に持ち込んではいけません。

- ③助言または映像機器の視聴は、競技運営並びに他の競技者の競技の妨げにならない範囲で、コーチングエリアに限り認める。ただし、映像機器類の手渡しや吊り下げ行為はスタジアムの設計上、危険を伴うので認めない。

16 警告について

不当な行為をした競技者には、当該審判長から警告が与えられ、場合によっては当該競技から除外される。警告はイエローカード、除外はレッドカードを示すことで競技者に知らされる。

17 プログラム訂正について

プログラムに訂正がある場合は大会 1 日目の競技開始 1 時間前までに、T I C に申し出る。

18 その他

- ①T I C (Technical Information Center) をスタジアム 2 F の A ゲート内に設置する。
T I C では、参加団体受付、オーダー用紙の取扱い、競技に関する抗議の受付、プログラム訂正の受付、遺失物保管などの業務を行う。
- ②競技中の傷病などについては、主催者が応急手当をするが、以後の責任は負わない。
- ③各チームのスタジアム内待機場所については、栃木陸上競技協会が指定した場所とする。
コンコース内にテントを設営することは認めない。また、競技場外の公園敷地でのテント設営は一切禁止する。なお、自由席・雨天練習場・更衣室等を占領してはいけません。
- ④第 2 競技場の 2 F コンコースは各団体が譲り合って使用すること。
- ⑤貴重品をはじめ物品の管理は、各自・各チームの責任の下で行う。
- ⑥スタジアム内 1 F のトイレは、100m スタート付近の正面スタンド内トイレを使用すること。
出入りについては 100m スタート付近からの出入りに限定する。
- ⑦更衣室については、男女ともスタジアム 2 F トイレ内の更衣スペース等を使用する。
また第 2 競技場の更衣室も使用可とする。ただし更衣室内に長時間滞在しないこと。
- ⑧スタジアムでの横断幕設置は、観客席最前列の手すりにひもで縛って設置すること。ただし、メインスタンドおよび 1 ～ 4 ゲート上の設置は許可しない。また、競技の妨げとなる状態で設置しないこと。横断幕の縦の長さが長く、競技場内の競技者の移動や競技の妨げになる場合には、大会運営本部の判断で撤去する場合がある。なお、のぼり旗は全面禁止。
- ⑨大会が数日にわたって開催される場合、横断幕は大会最終日まで設置したままで良い。
- ⑩第 2 競技場の会議室を整理運動後の休憩場所として開放する。会議室を休憩場所として使用する際は、長時間滞在しないこと。
- ⑪ユニフォームやバッグ等の商標に関する規定については、日本陸連の指針に則った対応とする。(下記 Q R コードから閲覧できる日本陸連公式サイトを参照)

競技会における広告および展示物に関する規程〔国内〕

[05_101632.pdf](#)



- ⑫本大会は全国都道府県対抗男子・全国女子駅伝競走の栃木県選手選考会を兼ねる。

【男子 5000m 男子 3000m 女子 5000m 女子 3000m】

19 災害時の避難場所

会場責任者の判断により避難の放送が入るので、避難誘導係の指示に従って落ち着いて行動すること。雷発生時などの非常時には、競技役員の指示にて屋内に避難すること。